

平成 27 年度食物栄養学科自己点検・評価報告書

目 次

	目 次	頁
自己点検・評価項目およびメンバー	1
I 教育	1
1 教育課程	1
(1) 教育課程	1
(2) 教職課程	2
(3) 栄養士実力認定試験	3
(4) 教育課程懇談会	4
2 校外実習・教育実習	4
(1) 校外実習	4
(2) 教育実習	5
II 学生支援	6
1 学生指導	6
2 進路指導（就職・進学）	7
III 地域貢献	10
1 研究・社会的活動所属関連団体・研修	10
2 管理栄養士国家試験準備講習会	21
3 公開特別講演会	21
4 公開講座	22
IV 入学者確保	23
1 学生募集	23
2 入学試験	24
3 広報	24
V マネジメント体制	27
1 自己点検	27
2 FD／SD活動	27
3 資源の有効利用	28

自己点検・評価項目およびメンバー

自己点検・評価項目	メンバー
概要	
専攻科食物栄養専攻の運営	竹内 弘幸 富岡 徹久 田淵 英一
Ⅰ 教育	深井 康子 堀田 裕史 守田 律子
Ⅱ 学生支援	稗苗 智恵子 山川 賀世子 山岸 博美
Ⅲ 地域貢献	高木 尚紘 大森 聡 樋口 康彦
Ⅳ 入学者確保	西島 美佳 稲場 暁子 廣田 恵巳
Ⅴ マネジメント体制	

I 教育

1 教育課程

(1) 教育課程

1)実績

a) 教育課程表

平成 27 年度食物栄養学科の教育課程は、前年度と比べ、学則改正はなく担当教員のみの変更となっている。

b) 資格取得数

平成 27 年度卒業生 78 名（前年度と比較して 10 名減）の資格取得数は、栄養士 76 名（12 名減）、栄養教諭二種免許 11 名（2 名減）、フードスペシャリスト 27 名（1 名増）、社会福祉主事任用資格 78 名（10 名減）で、NR・サプリメントアドバイザーはいなかった。

c) 学位授与方針、教育課程編成・実施の方針

平成 27 年度も継続して、学位授与方針と教育課程編成・実施の方針を再吟味した。結果として細かい字句以外、現在の時点で変更の必要性は見つからなかった。

d) 平成 27 年度新入生への対応

平成 27 年度の入学者数は食物栄養学科の定員オーバーしており、それへの対応が必要となった。一部の実習科目では班編成を多くして各学生の役割分担が減らないようにした。また講義室・実習室等の設備で特に不足等はなかった。

e) Web シラバスとその関係ツールの本格的な運用開始

平成 27 年度は、印刷シラバスはなく全面的に Web シラバスに移行した。また、学生アンケート、授業アンケートも全て Web シラバス関連ツールを使用しての実施となった。初年度運用の様子であるが、本学科では学生間の Web シラバス関連ツールの利用度に差が見られ、利用の定着には至っていない。

f) 授業回数の 15 回完全実施の定着

平成 27 年度では、平成 26 年度からの全科目半期授業回数 15 回の完全実施が定着し、問題も発生しなかった。

2) 課題

a) 平成 27 年度新入生への対応継続

平成 27 年度入学生が 2 年次になるのに対応して、一部の実習科目では非常勤を増員するなど、きめ細かい教育が可能にようにする。また 2 年次授業科目に対応して、PC 機器や栄養計算ソフトを増設して対応する。

b) 平成 28 年度より Web シラバスとその関連ツールの活用促進

平成 28 年度は今年度に見られた、学生毎の利用度の濃淡を平準化し、より利用を促進するようにすることが課題である。

c) 時間割過密状態について

食物栄養学科は、実験・実習が多いこと、取得すべき単位数も多いことなどから、時間割が過密である。特に 1 年後期、2 年前期の時間割が過密であり、また F 館コンピュータ演習室使用授業が多く時間割を難しくしている。時間割過密状態への対応は、今後とも継続して検討する必要がある。

d) 給食管理校外実習について

平成 27 年 9 月の厚生労働省東海北陸厚生局の現地視察において、給食管理校外実習関係の資料に不十分な点があるとの指摘がなされた。今後は指摘のあった点を改善するように検討し実施していくことが必要である。

(2) 教職課程

1) 実績

a) 教員組織

教職課程の教員組織全体としては、専任教員設置の分野に専任教員数を充足するなど専任教員数は基本的には安定している。一方「教育原理」「教職課程総論」はじめ計 5 科目を非常勤講師にお願いしている状況に変化はない。

平成 27 年より樋口康彦講師が教職課程専任教員として参加した。一時的に専任教員数は増えるが、平成 28 年度は専任の山川教員が異動し専任教員数は元に戻る予定である。

b) 免許取得学生数

平成 27 年度教員免許取得数は 11 人で、ここ数年 10～15 名で推移している。10 名未満では学生同士による切磋琢磨による活性化に問題があり、15 名を超えると受入先等の問題もあるので適性に範囲と思われる。

c) 平成 26 年度文部科学省視察への対応

平成 26 年 12 月 10 日の文部科学省の教員免許課程現地視察での授業科目「栄養教育実習指導」への指摘事項「事後指導の記述が見当たらない」に対応して、当該科目に事後指導として栄養教育実習報告会の準備指導・発表を実施し以後継続する。

d) 科目等履修生

平成 27 年度前後期に、本学食物栄養学科を卒業生が栄養教諭二種免許取得のために科目等履修生の申込みをしたが、体調不良のため履修はしなかった。

2) 課題

a) 平成 27 年 3 月文部科学省提出変更届の再提出

平成 27 年 3 月文部科学省提出の栄養教諭二種免許教職課程の変更届に対し、文部科学省から不適切事項の指摘があり、平成 27 年 5 月に再提出した。①授業科目「教職実践演習(栄養教諭)」で履修カルテを用いるとともに、教職科目全体の振り返りの場とすること、②「教職に関する科目」の教授職専任を 1 名以上とすること。③専任教員の教育研究業績書の記入法の指摘 2 件、④変更届の文言の指摘が 2 件であった。このうち①②の順守には今後とも留意が必要である。③は教職課程変更届け出用の履歴書・教育研究業績書は今後慎重に作成する必要がある。

(3) 栄養士実力認定試験

1) 実績

本学は、社団法人全国栄養士養成施設協会による栄養士実力試験を導入初年度の平成 16 年度より実施しており、平成 27 年度で 12 回目となる。

この試験は、全国の栄養士の資質向上と均一化を図り、栄養士養成施設の教育に関する認識の連携と強化を目的に実施している。判定基準は、A (栄養士として必要な知識・技能に優れ絶対的信頼が置けると認められた者)、 B (栄養士としてほぼ十分な知識・技能を取得しているが、なおいっそうの資質の向上を期待される者)、 C (栄養士としての知識・技能が不十分でさらに研鑽を必要とする者) の 3 ランクに分けられる。

試験結果の平均をみると短期大学が 38.8 点に対し、本学は 41.4 点で全国短期大学の平均より 2.6 点高い。四年制大学、管理栄養士養成校を含めた全国平均には及ばないものの、本学は短期大学においては全国的にみても栄養士実力試験での実力を発揮していることが示唆される。

栄養士実力認定試験の受験人数・試験結果の推移

回数		9回	10回	11回	12回
年度 ¹⁾		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受験人数 (人)	全国	9416	9388	9906	10349
	短期大学	4386	4342	4602	4514
	本学	85	82	87	78
試験結果の平均 (点)	全国	39.5	39.2	37.8	43.2
	短期大学	36.0	35.6	34.4	38.8
	本学	42.1	41.1	39.3	41.4

¹⁾全国：四年制大学（管理栄養士、栄養士養成）、短期大学、専門学校などの養成施設

2) 課題

①A ランク者の割合がより多くなるように学生に対して実力認定試験受験への意識をより高め、早期から継続的に働きかけていく必要がある。

②本学の学生が実力認定試験を通して平均点の向上とともに、真の実力を習得できるよう、模擬試験や栄養士総合演習の在り方の検討が要である。

(4) 教育課程懇談会

実施日：平成 28 年 3 月 8 日(火)10：00～11：20

場 所：食物栄養学科会議室 F314 室

参加者：専攻科食物栄養専攻 教職員 13 名

懇談内容：1. この一年を振り返って（各教員）

2. 編入学・就職等の指導について

1) 進路決定の時期

2) 意欲を持たせる工夫

2 校外実習・教育実習

(1) 校外実習

1) 実績

- a) 平成 27 年度は 2 年生が 8 月から 9 月に 2 単位の校外実習を行った。その内、実習先は病院 19 カ所、福祉施設 31 カ所、学校 9 カ所である。なお、学校実習は 1 単位とし、栄養教諭二種免許を取得する学生を対象としている。不足の 1 単位取得するために病院実習及び福祉施設実習のいずれかで行った。
- b) 本学科で作成している「校外実習を履修するにあたっての留意事項」に該当する学生は平成 27 年度 2 名該当した。1 名は持病のため校外実習が困難と判断した。1 名は成績不振により校外実習への参加を見送った。
- c) 現場の栄養士を招いてのオリエンテーションは厚生連高岡病院、野村藤園苑からそれぞれ辻氏、高岡氏を招聘し講演を行った。
- d) 抗体価検査は 1 年入学時に実施しており、風疹、水痘帯状ヘルペス、麻しん、流行性耳下腺炎の検査結果が陰性もしくは低い値であれば、できるだけ早い時期に接種するよう指導を行った。
- e) 実習施設によっては患者及び職員の個人情報保護に関する誓約書を必要とする施設が増えてきた。
- f) 実習報告会は 1・2 年生を対象に行った。2 年生には校外実習の成果を発表するよい体験となった。1 年生にとっては、来年度の実習に向けての心構えを得る機会となった。また、大学祭でのクラス企画として、実習の課題報告やポスターなどの媒体を展示し、好評を得た。
- g) 実習報告会に向けて全学生がレポートを提出したのでまとめて冊子を作成し、学生、教員へ配布を行った。実習受託先一覧等、各施設の詳細は報告書を参照。

2) 課題

- a) 実習に対する姿勢等での注意を受ける学生が増えてきている。事前指導において実習開始から終了までに取り組まなければならない事項についてきめ細やかにケアしていく必要があるように思われる。
- b) 実習中に実習担当者から進路について尋ねられた時に栄養士職ではない進路を選ぶ予定を伝えるなど、若干配慮のない受け答えを行う学生が目立つ。そのため、実習中の会話で配慮

すべき事項について注意喚起を行う必要があると考えられる。

c) 校外実習中の SNS の取り扱いに関して注意喚起が必要と思われる。

(2) 栄養教育実習

1) 実績

a) 27 年度は 11 名が実習を行った。

b) 栄養教育実習期間は、9 月 9 日～24 日のうちの 1 週間行った。

c) 実習校は別表のとおり、9 校で実施した。

d) 実習は全て小学校で行い、1 校あたり 1 名～2 名の配属であった。

e) 富山市及び高岡市教育委員会へは、担当者が教育委員会に出向き担当者に依頼し、その他の教育委員会は事前に電話にて了解を得て、直接学校に依頼して決定した。

f) 実習は給食管理と教育実習の 2 週間を連続して同一校で実習することを原則としているが、黒部市、砺波市においては、給食管理実習を給食センターで実施した。

g) 栄養教諭履修費として、15,000 円を昨年同様に集金した。

h) 実習校への挨拶は、担当者や学生が事前に訪問し、要望や留意点を伺い実習に備えた。また、実習期間中は、本学教員が学生の実践授業を参観した。

i) 大学祭時には、実習で使用した資料や実習内容をまとめて展示した。

j) 実習発表会は、11 月 24 日(火)に開催した。1 年生にとっては発表を聞くことにより、指導案の作成や実習に向けて準備しておくことが分かり、有意義な発表会であったと思われる。また、後輩から先輩への実習に係る質疑応答も実施した。

k) 科目等履修生が 1 名いたが、履修生の都合により実習にはいかなかった。

2) 課題

a) 一般教員や養護教諭、他県の栄養教諭の教育実習生は、実習前年度に実習校と交渉を済ませている。本学は、実習当年度に入ってから依頼しているため、実習校からは、“もう少し早く知らせしてほしい”、という指摘もあった。そのため、1 年生の成績が確定したら、早急に教育実習委員会を行い、4 月上旬までに市町村教員委員会や実習校に依頼をする。(本学のシステムからは、前年度から依頼することは困難であるが、少しでも早い時期にアポイントメントを取る手立ては必要であろう。)

b) 栄養教育実習は 1 週間と短いため、少しでも学校組織や児童の実態を理解することが、栄養教育実習をより効果的に実施できると考えているため、本学では原則給食管理実習と栄養教育実習を同じ学校で実施できるよう実習校に依頼している。しかし、給食管理実習(栄養士免許取得目的)と栄養教育実習(栄養教諭免許取得目的)の意味や違いを理解していない学生もいるため、実習前に周知しておく必要がある。

c) 2) の意義を踏まえつつ、次年度も市町村教育委員会には、この趣旨をご理解いただくよう働きかけていく。

d) 学生から実習時の心構えについて不安の声が多かったため、言葉遣い、挨拶の徹底、発声、聴講時の留意点等を指導した。

e) 栄養教育実習指導の授業では実習の目的及び心構え等について指導し、教育実習での研究

授業を想定した模擬授業を行い、教員としての自覚や意欲につなげるようにしているが、授業時間数の確保が難しいため、1年生から教職に係る科目を通して、継続的な指導を行うことが望ましい。

- f) 1学年と2学年の連携、短大と実習校との連携を充実させることで、より良い実習になるよう努めていく。

平成27年度 栄養教育実習 実習校一覧

	実習校	栄養教育実習期間	実習生数 (名)
黒部市	前沢小学校	平成27年9月15日(火)～24日(木)	1
黒部市	中央小学校	平成27年9月15日(火)～24日(木)	1
富山市	山室小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	1
富山市	鶯坂小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	1
高岡市	福岡小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	2
高岡市	下関小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	2
氷見市	北部中学校	平成27年9月9日(水)～15日(火)	1
砺波市	砺波東部小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	1
南砺市	井波小学校	平成27年9月14日(月)～18日(金)	1
		計	11

II 学生支援

1 学生指導

1) 実績

a) 休学・退学・復学

平成27年度入学生は1名の退学者が出た。平成26年10月より1年間休学していた2名が復学した。

b) 学科および学校行事への参加

郷土料理や加賀料理などを実際に味わって体験する日帰り研修や、大規模な食品工場や地域特産食品の製造工場などを見学する研修旅行は、食物栄養学科の科目をより深く理解する上で役立っている。これらの行事は栄養士総合演習の一部として実施している。また、大学祭では、学科企画として、平成26年度1年生は「バランスの良い食事」をテーマとして発表し、SATシステムを用いた栄養相談を行った。2年生は、8月から9月にかけて行なった校外実習の成果を報告した。併せて、保護者懇談会を実施した。

各行事の実施概要は以下のとおりである。

① 日帰り研修

期日：平成26年5月26日(火)

内容：1年 五箇山(報恩講料理、世界遺産菅沼合掌造集落散策)

学生101名 教員4名 参加

2年 つば甚(加賀料理)・近江町市場散策

② 研修旅行

期日：平成 26 年 9 月 15 日（火）～17 日（木）

対象：1 年、教員 4 名参加

場所：名古屋方面

- 1 日目 京の食文化ミュージアムあじわい館、ホテルニューオータニ厨房見学およびテーブルマナー。
- 2 日目 高山植物見学六甲山牧場
- 3 日目 クラブハリエ

③ 51 回大学祭

期 日：平成 27 年 10 月 16 日（金）～18 日（日）

④ 保護者懇談会

期 日：平成 27 年 10 月 18 日（日）

対 応：担任（1 年、2 年担任）

内 容：1 年生は前半、就職や進路など最も相談したいと思われる内容について全体説明をした後、希望者について個別懇談を行なった。2 年生は、進路について具体的な質問が予想されるため、個別懇談のみを行なった。
個別相談では、1・2 年生とも、就職や進路について相談が多く、健康面や奨学金等についての相談もあった。

2) 課題

- a) 入学して間もなくから学業に専念できない学生がいることを想定して、早期に個別や集団面接を取り入れ、保護者、担任、学生およびカウンセラー等との連携を図り、学生生活の支援や相談を行なっていく必要がある。
 - b) 学生生活・授業内容等の満足度の高さを維持していくために、web シラバスや図書館等を活用し学ぶ姿勢を身に着けることができるように働きかけが必要である。
- また、学生の社会参加活動や、ボランティア活動は減弱傾向にあるが、今後、積極的な活動を促し、コミュニケーション能力を含めて社会貢献ができる社会人を育てる必要がある。

2 進路指導

1) 実績

a) 進路状況

卒業生 78 名の進路状況は、就職 73 名（93.6%）、進学 1 名（1.3%）、その他家事等 4 名（5.1%）であり、この中には富山未来カレッジに進んだ学生を含んでいる。就職を希望した学生の内訳は、専門職の栄養士は 57 名（78.1%）、栄養士に準ずるは 8 名（11.0%）、一般事務、販売等は 8 名（11.0%）であった。栄養士、栄養士に準ずる業務の専門職について昨年は減少したものの、今年度は例年並みに回復した。また、栄養士職の主な内訳は事業所・

委託給食会社 39 名 (53.4%)、保育所 2 名 (2.7%)、福祉施設 10 名 (15.1%)、医療機関 2 名 (2.7%) であった。

b) 就職先へのお礼

平成 27 年 6 月に、食物栄養学科専任教員で平成 27 年 3 月に卒業した学生の就職先 (50 ヶ所) へ就職定着のための巡回と次年度の求人依頼を行なった。また、平成 28 年 2 月には在学生の内定先 (20 ヶ所) を訪問し、お礼を伝えるとともに就職先との連携強化に努めた。

c) 模擬面接について

実務指導の時間に、就職活動に必要な自己分析、模擬面接指導を行なった。また、「先輩と語る会」を 7 月 15 日 (水) に実施し、以下の 3 名の先輩から「就職活動の実際と心構え」についてアドバイスを貰い、就職に対する学生の意識の高揚に努めた。

シダックス ((株) (梨雲苑) 管理栄養士 (平成 24 年 3 月卒業)

和田保育園 管理栄養士 (平成 24 年 3 月卒業)

富士産業(株) (魚津病院) 栄養士 (平成 26 年 3 月卒業)

d) 給食会社説明会実施

進路決定の一助として 5 月 16 日 (土) に委託給食会社 4 社 (日清医療食品会社(株)、日本海給食(株)、(株)メフォス、富士産業(株)およびディライフ) の説明会を本学で開催した。残念ながら急な都合でディライフが欠席されたが、学生はほぼ初めての専門職の求人に対し真剣に説明を聞き、意欲的な就職活動に繋げることが出来た。

e) 求人情報収集及び求人開拓

平成 27 年度卒業生の就職に向けての求人情報収集と求人開拓のために、県内外の専門職関係機関などへの依頼を実施した。依頼状、求人票、学科概要、平成 26 年度卒業生の進路状況、カレッジガイドなど 346 通送付した。

f) 進路ガイダンス

就職支援センターと協議しながら、1 年生への進路ガイダンスは以下のように取り組んだ。

①路ガイダンスⅠ・・・平成 27 年 12 月 21 日(月)に学科長や支援センター長から就職についての取り組み、専攻科への編入についての話の後、内定を貰った在学学生 4 名から自分の体験を振り返り、1 年生へアドバイスの時間を設けた。

(社福) アルペン会 経費老人ホーム ケアハウスとやま、(社福) 神通福祉会 特別養護老人ホーム あすなるの郷、受託給食 日本海給食株式会社 (2 名)

②進路ガイダンスⅡ・・・平成 28 年 2 月 16 日 (水) に就職活動の進め方、進路希望調査、履歴書用写真撮影を行った。

③進路ガイダンスⅢ・・・平成 28 年 2 月 17 日 (木) に自己分析の必要性、先輩と語る会 (四年制大学編入予定者、福祉施設、保育所、委託給食会社、専攻科進学予定実務就職と、一般企業内定者の計 6 名) を実施した。

g) 労働法セミナー

昨年度から実施している本セミナーを平成 28 年 1 月 18 日 (月) に 1 年生を対象として実施した。就職だけでなくアルバイトとしても労働する場合の基本的に必要と思われる事柄等を学ぶことができた。

h) 教養科目対策講座

公務員試験を念頭においた教養科目を基本とする講座を平成28年3月22日(火)～30日(木)の7日間、受講者負担で開催した。本講座は、受講者86名のうち、食物栄養学科からは8名(9.3%)が受講した。

i) 栄養士専門職関係の求人は本学求人票のほかハローワークやインターネット等により行っている。納得できる仕事を求めて3月末まで就職試験を受ける学生がいた。また、今年度は県外での就職を希望する学生が多くいたが家族との話し合い等から、2名が関東で就職した。

j) 2年担任は、進路を具体的に把握するため、5月から模擬面接や個別指導を行なっている。又、必要に応じ、支援センターと連絡を取りながら学生への個別対応に力を注いだ。

k) 保護者懇談会は10月18日(日)の大学祭期間中に行なわれ、1年18名、2年19名の保護者に進路状況の説明など個別相談を実施した。アンケートより満足した、まあまあよかったという回答をいただいた。

1) 進学

四年制大学編入	仁愛大学 人間生活学部, 健康栄養学科	1名
その他	富山未来カレッジ	1名

2) 課題

a) 学生は直営の給食施設、中でも保育所等への就職を求めるものが多いが、給食施設の委託化の影響を受け、求人数が少なくなっている。このため、栄養士免許を取得したにもかかわらず栄養士以外の職種への就職を希望する学生が例年約1割いる。2年間かけて取得した資格を将来も含めて活かすことができるようにするためには、卒業してすぐの実務経験が貴重である。専門性を高めるためには健康管理も含め、就職等についての支援の必要性がある。

b) 医療機関や福祉施設、学校や保育所等も含め委託給食施設が増加したことから、委託給食会社への就職者数が多い。この傾向は年々強くなってきている。そのため学科で実施しているガイダンスを5社に依頼したが、急遽4社で実施することになった。次年度は5社での実施を試み、企業理解を深める。

c) 2年担任の就職支援指導に関する負担は大きく、就職に意欲的な学生がいる反面連絡等も十分にとることができない学生がいる。ホームルームや実務指導等で「報連相」の徹底を伝えるが反応の少ない学生に対しては対応が難しい。また、内定を頂いたのち、自己都合で辞退する場合の対応なども含めた進路指導が必要なケースがみられる。

d) 進学希望者に対する個別指導は、できるだけ1年次の早い時期からはじめることが望ましい。

e) 本学専攻科への進学予定者は、実務経験後入学するよう勧めている。実務させていただくことの重要性と、1年間育てるための努力をしてくださる施設の方々への感謝の気持ちを持つことを学生に伝えた。今年は希望者15名が内定をいただいた。

就職内定率						(%)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	0.0	58.7	81.3	90.5	95.9	100.
平成26年度	7.5	81.6	90.8	96.6	98.9	100.
平成25年度	4.0	59.5	76.2	89.0	93.9	100.

III 地域貢献

1 研究・社会的活動・所属関連団体研修

(1) 研究

著書・論文・執筆等

竹内弘幸

【論文】

Little effect of supplementation with 0.6% energy *trans* fatty acids on serum cholesterol levels in adult Japanese women. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology*, 61, 422-425 (H27) 共著

【執筆】

栄養科学シリーズNEXT 食品学総論, 講談社 (2015) 編集および共著

栄養科学シリーズNEXT 食品学各論 講談社 (印刷中) 共著

【新聞・その他】

ホタルイカの健康機能性について, JATAFF ジャーナル, 3巻, 15-19 (2015)

進化栄養学の観点から考える栄養教育の重要性, 全栄施協月報 665号 7-32 (2015)

読売新聞 6月24日, 暮らしカルチャー, 魚介類に含まれる栄養について解説

東京新聞 6月24日, トランス脂肪酸について解説

北日本新聞 10月27日, ココナッツ/エゴマなど植物油ブームについて解説

週刊文春 7月9日号, トランス脂肪酸について解説

T a k t 2月号, 身体を温める食事で寒さを吹き飛ばそう

NHK 7月24日, 「おはよう日本」, トランス脂肪酸 徹底解説

田淵英一

【論文】

Little effect of supplementation with 0.6% energy *trans* fatty acids on serum cholesterol levels in adult Japanese women. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology*, 61, 422-425 (H27) 共著

【執筆】

「脳が若返る脳トレーニング」, 富山短期大学 2014 公開講座記録集, 富山の魅力、再発見. 1-4 (H27.1) 単著

脳トレーニング問題の作成方法を学ぶ!, 黒部市社会福祉協議会「福祉くろべ」, P8 (H27.3) 単著

とけるとキモチイイ！ 快脳クイズ, もっと運がよくなる 「幸せ脳」のつくり方, PHP くら
しラク〜る♪, p41-56, PHP研究所 (H27.9) 単著
本当はカラダに悪い食べもの, 脳によい食べもの、悪い食べもの, PHP くらしラク〜る♪, p40-45,
PHP研究所, 京都 (H28.1) 単著

【新聞・その他】

認知症予防に一役. 県内各地で講師活躍. 北日本新聞, P7 (H27.11.4)
みんなのニュース「脳の活性化 より幸せな人生を」. 富山 (BBT) テレビ (H28.3.22)

深井康子

【執筆】

桜楓会新報：富山からのメッセージ (H27.6)
一般社団法人 日本調理科学会：平成26年度『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』
聞き書き調査報告書 富山県 pp.120～127 (H27.7)

【新聞・その他】

NHK 富山放送局 ニュース富山人：干し野菜の効用 (H27.6.)
富山高校探究科学科1学年：東西の食文化講義 (H27.6.)
正月料理に見る富山の食文化：北日本新聞 (H27.12.3)
富山短大生ドレッシング考案 若者に昆布親しんで：富山新聞 (H28.2.19)

堀田裕史

【論文】

都道府県別の脳血管疾患標準化死亡比（女性）の重回帰分析 単著 富山短期大学紀要第51
巻 (H28.3)

稗苗智恵子

【論文】

富山県内の老人福祉施設における食事提供調査と地域連携 単著 富山短期大学紀要第51
巻 (H28.3)

山川賀世子

【論文】

女子短大生の家庭における「共食」の尊重が親しい人間関係に与える影響 単著 臨床発達
心理学研究第13巻 (H26.12)

山岸博美

【新聞・その他】

富山県教育かわら版（夏・秋号）親子で一緒に作ろう！レシピ (H27.7・11)
はっぴーママ 子どもと楽しむ！スローフードのある暮らし 富山版秋号

高木尚紘

【論文】

若年女性のエネルギー摂取量と各栄養素摂取量の関連性、単著、富山短大紀要、51 巻 (H28. 3)

所属学会・研究会・研究発表等

竹内弘幸

【所属学会】

日本栄養・食糧学会（評議員）、日本栄養改善学会（評議員）、日本油化学会（評議員）、日本肥満学会、日本臨床栄養学会

【研究発表】

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会、モデルラットを用いたホタルイカおよびゲンゲの脂肪肝予防効果の検討、富山 (H28. 2) 共著

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会、成人女性における脂質摂取と血中脂質濃度および糖代謝マーカーとの関連、富山 (28. 2) 共著

富岡徹久

【所属学会】

日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本脂質栄養学会

【研究発表】

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：富山県産の米の亜鉛含有量の測定
共著 富山 (H28. 2)

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：腎臓病食中のポリフェノール含有量の測定
共著 富山 (H28. 2)

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：食事中のポリフェノール含有量の測定
共著 富山 (H28. 2)

第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：市販トマト中のグルタミン酸含有量の測定
共著 富山 (H28. 2)

田淵英一

【所属学会】

日本生理学会、日本味と匂学会、日本栄養改善学会、日本情動学会、国際脳研究機構

【研究発表】

第 62 回日本栄養改善学会学術総会：アトピー性皮膚炎罹患者における発芽玄米摂取による治療効果 共著 福岡 (H27. 9)

第 62 回日本栄養改善学会学術総会：アレルギー性鼻炎罹患者における発芽玄米摂取による治療効果 共著 福岡 (H27. 9)

第 62 回日本栄養改善学会学術総会：栄養・作業・運動療法による認知症治療効果（5 年間追跡調査）：運動機能評価 共著 福岡 (H27. 9)

第 62 回日本栄養改善学会学術総会：栄養・作業・運動療法による認知症治療効果（5 年間追跡調査）：精神機能評価 共著 福岡（H27.9）

平成 27 年度大学コンソーシアム富山「学生による地域フィールドワーク研究助成事業」発表会：栄養・作業・運動の複合療法による認知症治療 共著 優秀賞受賞

深井康子

【所属学会】

日本咀嚼学会（評議員）、日本伝統食品研究会（理事）、日本家政学会 食文化研究部会、日本調理科学会、高分子学会、日本栄養・食糧学会

【研究発表】

日本調理科学会東海・北陸支部、近畿支部合同研究発表会：富山の菓子木型とその保存・整理に関する考察 金沢（H27.7）

日本調理科学会平成 27 年度大会：有色素米アイスクリームの官能特性におよぼす富山県産農作物の影響 共著 静岡（H27.8）

日本調理科学会平成 27 年度大会：有色素米アイスクリームの調理特性におよぼす牛乳と豆乳の影響 共著 静岡（H27.8）

日本調理科学会平成 27 年度大会：富山県における初誕生までの儀礼と食べ物～昭和前期と平成期を比較して～ 共著 静岡（H27.8）

堀田裕史

【所属学会】

情報処理学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本経営工学会、日本栄養改善学会

守田律子

【所属学会】

日本調理科学会、日本食生活学会、日本家政学会、日本栄養改善学会

【研究発表】

平成 27 年度調理科学学会近畿・東海・北陸合同発表会 「豆乳の冷凍・解凍による分離技術の検討」石川（H27.7）

日本調理科学学会平成 27 年度大会：昆布ロード拠点における昆布利用の実態調査 共著 静岡（H27.8）

日本調理科学学会平成 27 年度大会：大豆の機能性成分を付加した新規用途食品の開発 共著 静岡（H27.8）

日本調理科学学会平成 27 年度大会：大豆の機能性成分の冷凍・解凍技術における最適な冷凍条件の検討 共著 静岡（H27.8）

稗苗智恵子

【所属学会】

日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会、日本健

康・栄養システム学会、日本調理科学会

【研究発表】

日本調理科学会平成 27 年度大会：小豆餡に用いる代替甘味料の検討 共著 静岡 (H27.8)
第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：富山県内の老人福祉施設における食事提供の実際
共著 富山 (H28.2)

山川賀世子

【所属学会】

日本教育心理学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本心理臨床学会

【研究発表】

日本教育心理学会第 57 回総会：親の育児や子どもについての感情－4～8 歳時点での父母の回答－ 共著 新潟 (H27.8)
日本教育心理学会第 57 回総会：共同絵本読み場面における母子交渉の質と子どもの理解 共著
新潟 (H27.8)
第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：食物栄養学科の学生の食習慣と親子関係との関連
共著 富山 (H28.2)
第 11 回日本栄養改善学会北陸支部学術総会：幼児教育学科の学生の食習慣と向社会的行動の関
連 共著 富山 (H28.2)

樋口康彦

【所属学会】

日本応用心理学会

山岸博美

【所属学会】

日本食育学会、日本スポーツ栄養学会、日本栄養改善学会、日本栄養士会

高木尚紘

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会

大森聡

【所属学会】

日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会

【研究発表】

第 62 回日本栄養改善学会学術総会：野菜における加熱前後の重量および容量変化 第二報 共
著 福岡 (H27.9)

研究助成の申請（採択分）

竹内弘幸

科学研究費助成：基盤研究（C）新しい動脈硬化指標 CAVI を用いた生活習慣病予防のための脂質摂取に関する研究，期間 H25. 4～28. 3，390 万円（直接経費）

旗影会研究助成金：トランス脂肪酸の健康影響評価 ―日本人中高年者を対象とした介入試験―，期間 H27. 4～28. 3，100 万円

田淵英一

科学研究費助成：基盤研究（C）新しい動脈硬化指標 CAVI を用いた生活習慣病予防のための脂質摂取に関する研究，期間 H25. 4～28. 3，45 万円（直接経費、分担研究）

富山短期大学・学長裁量研究費：栄養・作業・運動の複合療法による認知症治療効果，期間 H27. 4～28. 3，29. 5 万円

大学コンソーシアム富山・学生による地域フィールドワーク研究助成：栄養・作業・運動の複合療法による認知症治療，期間 H27. 4～28. 3，20 万円

深井康子

平成 27 年度学長裁量経費：有色素米ペーストに県特産農産物を混合させた氷菓の開発，期間 H27. 6～H28. 3，研究経費 14. 4 万円

平成 27 年度富山第一銀行奨学財団：次世代に伝え継ぐ 富山の家庭料理，期間 H26. 7～H28. 3，研究経費 15 万円

稗苗智恵子

平成 27 年度学長裁量経費：必要エネルギーと体質を考慮した地域住民の生活習慣病の予防・改善のための栄養食事指導 H27. 7～H28. 3 研究経費 15 万円

富山第一銀行奨学財団研究助成金：必要エネルギーと体質を考慮した地域住民の生活習慣病の予防・改善のための栄養指導の実践活動 H27. 7～H28. 5 研究経費 18 万円

山川賀世子

富山第一銀行奨学財団研究助成金：家庭の食習慣と食についての表象の検討 期間 H. 26. 4～H27. 3 研究経費 20 万円

山岸博美

【研究助成金】（公財）富山県人づくり財団高等教育振興事業助成金：ドライフーズを利用したライフスタイル別の料理開発 期間 H. 27. 4～H28. 3 研究経費 50 万円

大森聡

公益財団法人富山県人づくり財団高等教育振興財団助成事業第 5 号助成金：呉羽梨摂取が食後血糖に及ぼす影響 期間 H27. 6～H28. 3 研究経費 23. 3 万円

(2) 社会的活動

講演・講義・シンポジウム

竹内弘幸

【講演】

食生活改善推進リーダー研修会, 「今さら聞けない栄養の基礎知識」, 富山市保健所 (H27. 6)
食品安全フォーラム in とやま, 「富山の特産品の機能性と安全性」, サンフォルテ (H27. 7)
第 40 回油脂物性研究会, 「トランス脂肪酸と飽和脂肪酸について～海外での規制の状況を含めて～」, 東京 (H27. 11)

富岡徹久

【講演】

富山保健所 食生活改善推進員リーダー研修会: 「長寿を支える健康な食事とは」 (H27. 10)
新湊農村緩急改善センター 女性学級: 「食の安心、安全について」 (H28. 2)

【講義】

富山歯科総合学院: 生化学

田淵英一

【講演】

八尾保健センター 八尾地域心の健康づくり講演会: 脳と心の若返り健康術～脳トレで前向き思考に～ (H27. 3)
高岡市立成美小学校拡大保健委員会講演会: 睡眠とゲーム脳 (H27. 2)
富山市健康教育事業(小長沢地区): 生活習慣と病気 (H27. 2)
富山市健康教育事業(古沢地区): 身体と心のしくみ (H27. 2)
富山市地域総合相談会(上田島公民館): 楽しい脳トレーニング (H27. 3)
シオタニ(株)セミナー(ケアパートナー野々市): おもしろ脳トレ教室「～楽しく脳を活性化～」 (H27. 3)
平成 27 年度富山大学入学式. 新入生に対する特別講演会: 先輩からの言葉 (H27. 4)
平成 27 年度富山県食生活改善推進連絡協議会定例総会特別講演: 脳と身体の健康を維持するために (H27. 5)
牧野小学校家庭教育講演会: 睡眠とゲーム脳 (H27. 6)
富山市健康教育事業, (音川交流センター): 生活習慣と病気 (H27. 7)
砺波市社会福祉協議会: 脳トレ講座. セカンドライフのボランティア入門講座 (H27. 7)
富山県改良普及職員OB会研修会: 楽しく幸せに生きるための脳の使い方 (H27. 7)
全国左官タイル塗装業国保組合富山県支部: 脳が若返える脳トレーニング (H27. 8)
シオタニ(株)終活セミナー(ピースフル北金沢): おもしろ脳トレ教室 (H27. 8)
八尾町ボランティア連絡協議会: ボケないための脳トトレーニング (H27. 11)
柳町小学校学校保健委員会講演会: ゲーム脳とは? (H27. 11)
富山市健康教育事業(八尾保健センター): 脳トレで認知症を予防しよう (H27. 11)
黒瀬谷地区ふるさとづくり推進協議会: 脳と心の若返り術～脳トレで前向き思考に～ (H28. 2)

富山市老田地区願海寺野々上長寿会（願海寺野々上公民館）：認知症予防のための脳トレーニング（H28. 2）

富山県中小企業団体中央会（富山市四方チャレンジ・ミニ企業団地）：認知症予防に効く脳トレーニング・人生を満喫するための脳の使い方（H28. 3）

J Aとなみ野 ほほえみの会講演会：認知症予防のための脳トレーニング（H28. 3）

【講義】

富山市民大学講座：楽しい脳トレーニング 年10回（H27. 4～10）

富山いきいき長寿大学専門的実践講座：いきいき脳トレリーダー養成講座 年6回（H27. 10～H28. 2）

富山県いきいき長寿大学すこやか生活講座：脳のトレーニング 年2回（H27. 8）

富山国際大学こども育成学部：精神保健 年5回（H27. 4～7）

富山国際大学こども育成学部：医学一般 年15回（H27. 10～H28. 3）

脳トレクラブ交流会 年1回（H25. 1, H26. 1, H27. 1, H28. 3）

深井康子

【講演】

南砺市健康づくりボランティア合同研修会：「子どもの食育のための環境と地域連携」（H27. 4）

富山市環境保健衛生大会：「伝統食に学ぶ長生きの秘訣」（H27. 7）

職藝学院マイスター講座：「富山の暮らしに息づいた菓子木型」（H27. 8）

富山市学校給食研究会：「次世代に伝え継ぎたい和食の文化」（H27. 11）

富山市立図書館ワークショップ：「富山の郷土料理ってどんな料理～食育カルタであそぼう」（H27. 11）

富山ロータリークラブ：「和食は体に危ない？～次世代に伝えたい富山の郷土食～」（H28. 3）

南砺市と富山交際大学・富山短期大学との連携締結フォーラム：「次世代に伝え継ぎたい、南砺市の食事と伝承への取組」（H28. 3）

【講義】

富山市民大学講座：「健康生活の知恵」第1回 健康と栄養のはなし～子どもから成人の食を中心に（H27. 9）、第2回 健康と栄養のはなし～健康寿命をのばすために～（H27. 10）

富山短期大学幼児教育学科：子どもの食と栄養 前・後期各15回（H27. 4～H28. 2）

富山市医師会看護専門学校：食生活と栄養 15回（H27. 8～10）

富山国際大学こども育成学部：生活文化演習 4回（H27. 11～H27. 12）

富山県水橋高校出前授業：健全な食生活を送るには（H27. 12）

守田律子

【講義】

富山市民大学 「健康生活の知恵」 家庭での HACCP （H27. 6/3）

ウイングウイング公開講座 「どんな水を飲んでますか」（H28. 3/11）

稗苗智恵子

【講演】

- 氷見市健康づくりボランティア：食べ方の知恵 氷見市 (H27. 5)
富山市体育協会：運動と食事改善で健康活動 富山市 (H27. 6)
富山市体育協会：望ましい食事のとり方は?? 富山市 (H27. 11)
富山県定時制学校給食研究会：食生活と健康について 魚津市 (H27. 6)
富山県小学校教育課程夏季研修会(家庭科部会)：子どもの心と身体を育む食事づくり 上市町 (H27. 8)
富山県新川厚生センター：子どもの心を引き寄せるには 黒部市 (H27. 8)
富山県高岡厚生センター：子どもの健康・栄養課題と給食施設の役割 高岡市 (H27. 8)
日本カーバイトOB会：これからの健康づくり 魚津市 (H27. 10)
富山県中部厚生センター：幼少期からの生活習慣病予防とその食支援 上市町 (H27. 2)
新川厚生センター：できることから始めよう！さよならメタボリックシンドロームにむけて 黒部 (H28. 3)

【講義】

- 氷見高等学校 専門技術者等招聘講座：栄養士・栄養教諭の仕事とは、最近の青年期の食に関する課題と食育について 氷見市 (H27. 11)
富山県立総合衛生学院看護学科：栄養学 (H27. 5～6)
富山県立総合衛生学院助産科：母子の栄養 (H27. 6)

山川賀世子

【講演】

- 富山県放課後児童指導員研修会：児童期の子どもへのまなざしー児童期の子どもの特徴と大人の役割ー 高岡市 (H27. 7)
富山県放課後児童指導員研修会：児童期の子どもへのまなざしー児童期の子どもの特徴と大人の役割ー 富山市 (H27. 7)
放課後自走支援員都道府県認定資格研修会：子どもの発達理解 高岡市 (H27. 9)
放課後自走支援員都道府県認定資格研修会：子どもの発達理解 富山市 (H27. 9)
富山県子育て支援員研修会：子どもの発達理解と児童期の生活と発達 富山市 (H28. 2)

【講義】

- 富山国際大学子ども育成学部：幼児理解5回 (H27. 10～11)
高大連携授業(富山国際大学附属高等学校)：「痩せたい心」と「食べたい心」(H27. 12)

樋口康彦

- 【講義】** 富山短期大学幼児教育学科：教育心理学 (H27. 4～8)

山岸博美

【講演】

- (公財) 氷見市体育協会スポーツ医科学委員会：「スポーツ選手に必要な食事」 氷見高等学校 (H27. 7)

南砺市学校給食研究会：「食に関する正しい知識と望ましい食習慣を形成するための指導の工夫」南砺市福野文化創造センター・ヘリオス（H27.8）

富山県保育所給食研究会：「食事提供に関するヒヤリハット事例から学ぶ」「スキムミルクへの理解を深める調理実習」富山短期大学（H27.8）

（公社）富山県栄養士会病態栄養講習会：「食事摂取基準 2015（病態別）について」富山県総合福祉会館（H27.9）

立山町立立山中央小学校学校保健委員会：「朝ごはんの大切さ」立山中央小学校（H27.10）

富山市立図書館「地域に学ぶ食育」：「野菜と仲よし」富山市立図書館（H27.11）

高木尚紘

【講演】

みどり野幼稚園公開講座：おやつづくり（H27.6）

大森聡

【講演】

災害時における栄養士の役割と対応を学ぶ研修会（H28.1）

【講義】

富山県立八尾高校 出張授業：食べる順番による血糖値の変化—より健康になるための食べ方—（H27.12）

行政および関係者等への審議会・研究会委員等

竹内弘幸

日本栄養・食糧学会 代議員

日本栄養改善学会 評議員

日本油化学会 代議員

富岡徹久

富山市食の安全懇話会委員

田淵英一

日本生理学会評議員

日本情動学会評議員

富山大学医学部同窓会会長（理事）、会報編集委員

富山大学同窓会連合会副会長（幹事）

富山大学杉谷（医薬系）キャンパス国際交流助成会理事

富山県立総合衛生学院助産学科入試問題作成委員

富山国際大学倫理委員会委員

医療法人社団功連会中川病院（精神神経科・内科）非常勤医師

社会福祉法人あゆみの郷（重度心身障害施設）非常勤医師

萩野病院（内科）非常勤医師
富山国際大学附属高等学校 学校医

深井康子
特定非営利活動法人日本咀嚼学会 評議員
日本調理科学会東海・北陸支部富山県連絡委員
日本調理科学学会特別研究富山県責任者
日本伝統食品研究会 理事
富山県消費者協会 副会長
富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター運営会議委員
富山市市民学習センター運営協議会委員
富山県 LP ガスお客様相談所委員会委員

守田律子
富山県ふぐ処理試験委員 第1回学科試験問題作成委員会（H27.10/7）
第2回試験判定会議（H27.11/2）
Gライン主催料理コンテスト審査員（H27.12/13）

稗苗智恵子
とやま在宅協議会委員（H26.7～）
「富山市健康プラン21」推進委員会委員（H28.2～）
魚津市食育推進委員会委員（H28.3～）
（公社）富山県栄養士会副会長（H25.5～H27.5）富山県栄養士会理事

山岸博美
高岡厚生センター管内食育推進連絡会委員（H24～）
富山県保育士会南砺市委託研究講師（H27～）
氷見市学校給食検討委員（H27～）
富山県広域消防防災センター「広域消防防災センタージュニア防災フェスティバル・非常食アレンジレシピ・コンテスト」審査員（H27）

大森聡
川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科臨床栄養学専攻 研究生
富山県栄養士会 生涯教育プロジェクト委員

（3）所属関連団体研修

富山県栄養士会
富山県栄養士会総会
生涯学習研修

2 管理栄養士国家試験準備講習会

平成 27 年度

1)実績

- a)管理栄養士国家試験受験のための講習会を県内に在住する栄養士および専攻科学生を対象に、平成 27 年 9 月 5 日～平成 28 年 1 月 9 日に実施した。
- b) 受講者募集は 4 月に募集要項を作成し、富山県栄養士会および本学卒業生で栄養士として在職している者に案内した。申し込み期間は 5 月 18 日から 6 月 30 日までとした。
- c) 募集定員 15 名のところ、11 名の受講申し込み受付をし、承諾通知を発送した。
- d) 開催は、土曜日のみで 5 日間開催した。
- e) 受講料 (18,000 円) とし、参考書はクエスチョンバンク「2015 管理栄養士国家試験問題解説」(4,617 円) を使用した。
- f) 全国統一模擬試験を 2 回実施した。
- g) 専攻科 2 年生には、全国統一模擬試験を 2 回とも全員に受験させ、1 年生には 1 回以上を受験するよう指導し、今後に向けて努力するよう促した。

2)課題

- a) 第 30 回試験より問題配分が変更するため、新カリキュラムに対応した試験対策の充実が求められる。
- b) 管理栄養士国家試験受験願書はまとめて入手し、受験生への配布を行っているが、受講者の受験状況と合格状況の把握が難しく、検討が必要である。
- c) 募集定員 15 名のところ、受講申込者が 11 名で定員に満たなかった。アンケート結果を参考に講座内容の検討をしていきたい。

3 公開特別講演会

1)実績

a) 公開特別講演会

公開特別講演会 平成 27 年 6 月 6 日 (土) 13:00～14:30 富山短期大学

演題	講師名	参加者
「日本人の食事摂取基準(2015 年版)の見方・捉え方」	佐々木 敏 先生 東京大学 教授	学生 214
		教職員 14
		合計 225 名

公開特別講演会 平成 27 年 10 月 1 日（木）13:00～14:30 富山短期大学

演題	講師名	参加者
「食品成分表の読み方・使い方と成分表 2015(仮称)の概要」	渡邊智子先生	学生 205
	千葉県立保健医療大学 教授	教職員 14
		合計 219 名

2) 課題

公開講座ということで、本学の学生のみならず、県栄養士会員や地域住民等一般からの参加を増員するため、地域連携センターと連携を図りながら、行っていく。また、最新の栄養学等の情報を発信していく担い手としての大学の役割も、地域等に PR していく。

4 公開講座

1) 実績

専攻科教員が担当した公開講座の実施日時や受講者数は、以下の表の通りである。

平成 27 年度

講座名	実施日時	講師	座内容	受講者数
県民カレッジ連携講座「五感でリフレッシュ！」	7/4（土） 9:30～12:00	大森聡講師	メンズキッチン	21 名
井波総合文化センター「富山をささえる生活文化」	7/10（金） 14:00～15:30	深井康子教授	北陸の落雁と菓子型の魅力	3 名
富山短期大学附属みどり野幼稚園「楽しく子育て」	6/6（土） 9:30～11:00	高木尚紘講師	親子で楽しむおやつ作り	60 名
富山国際学園福祉会にながわ保育園「親子で楽しく！」	10/24（土） 9:30～11:00	深井康子教授	作って伝える郷土のおやつ（3歳児以上親子）	47 名
ウイング・ウイング高岡 高岡市生涯学習センター連携講座	3/11（火） 14:00～15:30	守田律子教授	富山の水について	49 名
滑川福寿大学	5/9（金） 13:30～14:50	稗苗智恵子准教授	身体リズムと食事	75 名

2)課題

昨年度より増して地域に密着し貢献していくことや、県内活動拠点の開発が必要と考えられる。

IV 入学者確保

1 学生募集

1)実績

28年度入学試験は、入学定員80名を厳守すべく入学者83名となった。入試区分ごとの入学定員、受験者、入学者は以下の表の通りである。

入試区分		募集人員		受験者		合格者		入学者	
		h27	h28	h27	h28	h27	h28	h27	h28
推薦入試	公募制	53	52	63(6)	77(4)	59(6)	55(3)	59(6)	54(3)
	指定校制								
	併設校制								
自己推薦		若干名	若干名	8(1)	7(0)	5(1)	3(0)	5(1)	3(0)
一般入試 I期		22	23	48(1)	47(1)	36(1)	27(0)	25(1)	19(0)
一般入試 II期		若干名	若干名	10(0)	5(0)	1(0)	1(0)	1(0)	1(0)
センター利用型 前期		5	5	43(1)	27(1)	24(0)	14(0)	9(0)	4(0)
センター利用型 中期		若干名	若干名	9(0)	3(0)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)
センター利用型 後期		若干名	若干名	5(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
特別入試	社・学等 A	若干名	若干名	4(0)	1(0)	3(0)	1(0)	2(0)	1(0)
特別入試	社・学等 B	若干名	若干名	3(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
総計		80	80	193(9)	169(6)	129(8)	103(3)	102(8)	83(3)

過去5年間の入学試験における募集定員及び受験者を以下の表に示した。受験者数は169名あり、昨年より減少したもの一昨年の105名の1.59倍であった。

入試区分	h24	h25	h26	h27	h28
推薦入試	63(3)	59(1)	42(4)	63(6)	77(4)
自己推薦				8(1)	7(0)
一般入試 I期	52(1)	43(1)	49(2)	48(1)	47(1)
一般入試 II期	5(1)	2(0)	1(0)	10(0)	5(0)
センター利用型 前期	11(0)	5(1)	11(0)	43(1)	27(1)
センター利用型 中期				9(0)	3(0)
センター利用型 後期	5(0)	2(0)	1(0)	5(0)	1(0)
特別入試	1(1)	4(1)	2(0)	4(0)	1(0)
特別入試				3(0)	1(0)
総計	137(6)	115(4)	106(6)	193(9)	169(6)

2)課題

- 1) 試験区分が増えたことにより、受験者増となった。この増えた要因として、一般I期入試とセンター利用型前期との重複や一般II期入試とセンター利用型中期との重複というような重複受験が考えられる。今後どの区分での受験が高校生にとって受験しやすいのかを検討する必要がある。
- 2) 一般入試I期では昨年度、今年度と約70%の歩留りであり、センター利用型入学者数

の変動が大きく、歩留り予想が難しい。

2 入学試験

1) 実績

昨年度から推薦入試区分の指定校制、併設校制、公募制のうち公募制に併願を取り入れた。また、自己推薦入試も導入し、センター試験利用型入試も前期と後期であったが、中期を取り入れ、計3回実施することになった。特別入試も1回から2回に増やした。幅広い受験生の確保に繋げた。

入試日および実施場所等については、以下の表の通りである。

入試区分	専攻日・試験会場	選考方法
推薦入試	平成27年11月15日(日)	書類審査、小論文、面接
自己推薦	平成27年12月12日(土)	書類審査、面接
一般入試 I期	平成28年 1月29日(金)	書類審査、筆記試験 2科目(指定:国語 選択:英語 I II、数学 I、生物基礎)
一般入試 II期	平成28年 2月19日(金)	書類審査、小論文、面接
センター利用型 前期		書類審査、センター試験 2科目
中期		(国、数(数 I、数 II、数A)理(物、化、生、地学)
後期		外(英))
特別入試 社・学等 A	平成27年12月12日(土)	書類審査、面接
B	平成28年 2月19日(金)	書類審査、面接

2) 課題

- a) 自己推薦では昨年の8名に続き今年度も7名の受験があった。特進クラス等で学校推薦を得られなかった学生の進路選択の幅を拡大できるように今後も継続することが求められる。
- b) 今年度は併設校から幅広い入試区分での受験があったが、次年度以降も継続して受験者があるか推移を見守る必要がある。

3 広報

1) 実績

a) 進学相談会、出張授業、本校訪問対応等

オープンキャンパス、高校関係者の本学訪問時の学科紹介兼ガイド、進学相談会、高校での校内説明会、高校での模擬授業等を実施した。以下に詳細を記載する。

進学相談会

	月日	曜日	場所	担当教員
1	6月18日	木	高岡商工会議所	富岡
2	9月15日	火	ANN クラウンホテル	富岡
3	10月17日	土	大学祭	守田
4	10月17日	土	大学祭	田淵

	日			
5	3月27日	火	富山国際会議場	山岸

高校関係者本学訪問

	月日	曜日	会場	担当教員
1	7月1日	水	富山西高校 PTA	稗苗
2	7月6日	月	富山西高校	山岸
3	7月13日	月	小杉高校	樋口

高校での校内説明

会

	月日	曜日	高校名	担当教員
1	4月23日	木	伏木高校	深井
2	5月29日	金	富山西高校	守田
3	6月15日	月	鵬学園高校	大森
4	6月19日	金	南砺平高校	稗苗
5	6月20日	土	中央農業高校	守田
6	7月10日	金	高岡第一高校	山岸
7	7月14日	火	小杉高校	守田
8	7月22日	水	氷見高校	高木
9	8月25日	火	氷見高校	山川
10	9月15日	火	志貴野高校	稗苗
11	9月25日	金	中央農業高校	深井
12	9月26日	土	国際附属	竹内
13	9月26日	土	中央農業高校	山岸
14	10月2日	金	小杉高校	大森
15	10月23日	金	富山西高校	高木
16	10月28日	水	小杉高校	竹内
17	11月7日	土	能登高校	稗苗
18	12月3日	木	泊高校	高木
19	12月11日	金	高岡商業高校	深井
20	12月15日	火	上市高校	大森
21	2月23日	火	宝達高校	竹内
22	2月24日	水	雄峰高校	樋口
23	2月25日	木	雄峰高校	山川

24	2月26日	金	小矢部園芸高校	富岡
25	3月11日	金	高岡龍谷高校	稗苗
26	3月14日	月	入善高校	山岸
27	3月17日	木	入善高校	稗苗
28	3月22日	火	入善高校	高木

高校での模擬授業

	月日	曜日	会場	担当教員
1	7月6日	月	滑川高校	山川
2	7月9日	木	石動高校	大森
3	7月23日	木	富山いずみ高校	田淵
4	12月3日	木	富山国際大学付属高校	山川
5	12月4日	金	水橋高校	深井
6	12月9日	水	富山いずみ高校	高木
7	12月11日	金	八尾高校	大森

b) 新聞報道

食物栄養学科、専攻科食物栄養専攻と関連した新聞報道の報道年月日、タイトルは、研究・社会的活動・所属関連団体研修の各個人の欄を参照する。

c) ホームページ

① ホームページ

本学科・専攻科食物栄養専攻のホームページは必要に応じて変更をおこなった。

② ブログ

食物栄養学科の新規ブログ記事は、4月0件、5月2件、6月3件、7月4件、8月0件、9月0件、10月4件、11月1件、12月2件、1月3件、2月3件（平成27年3月31日現在）であった。

d) カレッジガイドの作成

本学志望者、教員、保護者向け資料として高校生や高校に配布しているカレッジガイドの2016年度入試用の「カレッジガイド2016」は、2015の一部改変となった。

e) 知っ得情報／コスモス通り（富山国際大学）／卒業生からの Message の作成

① 知っ得情報は、年度内発行の「推薦入試号」、「一般入試号」において、食物栄養学科の記事を作成した。

② 卒業生からの Message において、食物栄養学科の記事を掲載した。

2) 課題

a) ブログ

平成 27 年度は、ブログ記事は各行事担当者が作成すること、また、教員で担当を決め、授業紹介を行うことにした。また、学科行事や授業紹介に加え、教員の活躍や学生の活躍に関することも記事にすることができた。

しかし昨年度に比べて記事の数がやや少なくなっており、今後はたとえ小さな行事であっても積極的に取り上げ、記事の本数を増やす必要があるだろう。また 8 月と 9 月が記事数 0 本となっている。学生が学校にあまり来ない時期であるとはいえ、何か書くことがないか見直す必要があるだろう。

V マネジメント体制

1 自己点検

1) 実績

学科運営のため、前期 21 回、後期 21 回の計 42 回の科内会議を開催した。また、アクションプランに基づき自己点検を行い、アクションプランの点検表を作成した。年度始めには、各教員が個人年間計画・評価票を作成し、その内容について学科長が点検した。年度末には、個人年間計画・評価票に基づき、業務評価を行った。シラバスについては、学科長および教員委員が、記載事項について点検を行い、必要に応じて修正を依頼した。

2) 課題

ほぼ毎週 1 時間～2 時間程度の科内会議を実施している。情報共有の観点からは、じっくりと時間をかけて会議を行うことが好ましいが、時間的な負担が多いのは事実である。情報共有と業務効率のバランスを考えていく必要がある。

2 FD/S D 活動

1) 実績

少なくとも 1 回は FD/S D 活動に参加するように働きかけた結果、全員 1 回以上は研修会に参加した。担任業務について、学科独自の研修会を実施した。

2) 課題

教員間で研修会参加のばらつきがあるので、各教員の参加状況を把握し、出席回数の増加を目指す必要がある。

3 資源の有効利用

1) 実績

今年度末で退職および移動する教職員が 3 名、次年度 4 月より新たに採用される教員が 1 名いるため、学科内の業務分担については見直しを図った。次年度の教育・研究に支障ができないよう、老朽化した機器の予算申請を行った。

2) 課題

今後も定年により退職する予定の教員が控えているので、若手教員の早急な育成が必要である。